

各地の取り組み ―熊本県における植物防疫業務―

熊本県農業研究センター 古家 忠

■農業の概要

熊本県は九州の中央に位置し、平野部の熊本・玉名・八代地域、高冷地の阿蘇地域、海岸諸島部の天草地域、盆地の球磨地域等でそれぞれの気候、地勢を活かした農業が営まれています。本県の年平均気温は、熊本市で 17℃前後、阿蘇地方は 10℃前後、天草地方 18℃前後であり、年間降水量は約 2,000mm ですが、山地では約 3,000mm と降水量が多くなっています。このような中で、トマト、スイカ、いぐさ、宿根カスミソウ及び葉タバコの 5 品目が生産量全国一位であり、その他にも、不知火（デコポン）など全国的に生産量で上位を占める品目が数多くあります。

■病害虫防除の変遷・概要

本県病害虫防除所は、1952 年に県内 11 ケ所に設置され、1972 年に 2 ケ所に、1986 年に 1 ケ所に統合されました。1989 年には県農業研究センターの新設に伴いセンター内に併設移転され、さらに 2003 年に県農業研究センター生産環境研究所病害虫研究室予察指導係として再編整備されました。現在は、所長（研究室長兼務）を含む 6 名の職員で水稻、野菜、果樹、茶、いぐさ等の 20 作物、延べ約 200 種類の病害虫に関して調査を行っています。

■病害虫防除所の業務

（１）病害虫発生予察事業

県内全域に 186 ケ所の定点巡回調査地点、4 ケ所の県予察ほ、11 ケ所の地区予察ほ（予察灯、フェロモントラップ等）を設置しています。これら地点での調査に 52 名の病害虫防除員からの情報や気象予報等を加えて、月 1 回、病害虫防除所職員、研究所、県関係機関、関係団体の担当で構成する病害虫発生予察運営会議において翌月の予報を検討し、予察情報として取りまとめしています。予察情報は、病害虫防除所のホームページに掲載するとともにメールや

FAX で県関係機関、市町村、農協、農業団体等に提供しています。

（２）病害虫発生予察特別調査事業

県内で特に注意を要する水稻の飛来性害虫、果菜類のウイルス病と媒介虫、果樹カメムシ類、チャトゲコナジラミ、イグサシンムシガ等については、毎月の巡回調査とは別に特別調査を実施し、主に「技術情報」として随時、予察情報と同様に情報提供を行っています。

（３）植物検疫事業

ミバエ類、アリモドキゾウムシ・イモゾウムシ、プラムポックスウイルス、スイカ果実汚斑細菌病菌の特殊病害虫侵入警戒調査並びに種馬鈴しょ検疫を行っています。

■特徴的な取り組み

本県では、トマト黄化葉巻病やウリ類退緑黄化病等のタバココナジラミが媒介する虫媒伝染性ウイルス病が問題となっています。病害虫防除所では、各地の農業・普及振興課（普及指導センター）と連携しながら、トマト苗トラップ設置による発病状況調査や粘着トラップに捕獲されたタバココナジラミのウイルス保毒虫率調査を行い、予察情報と同様に情報を提供しています。



図 設置したトマト苗トラップ
下段のペットボトルからの底面給水により灌水を省力化している